

当院での末梢動脈疾患治療症例に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2019年1月8日～2022年12月31日

〔研究課題〕

当院にて治療を行った末梢動脈疾患患者の臨床成績に関する後ろ向き検討

〔研究目的〕

足の血管が細くなり血流不足になることから足の痛みや潰瘍・壊疽などを引き起こす病気は昨今増加しております。しかし、治療後の経過や足の切断やその後の死亡に関する研究は充分とは言えないのが現状です。動脈硬化を背景とした病気のため、心筋梗塞など心臓の血管の病気にもなりやすいことが知られており、心筋梗塞などによる心血管死亡が多いことも知られております。そのため本研究を通して、足の血管の病気の患者について、心臓の血管の病気や動脈硬化のリスク因子についてより詳細に評価し、その死亡リスクや下肢切断などに与える影響を検討したいと考えます。

〔研究意義〕

本研究を通じて足の血管の病気の患者における病気になりやすい背景、下肢切断や死亡にかかわる因子、心臓の血管の病変の有無や性状を解明します。それにより、患者の下肢切断や死亡リスクの予測や回避に役立つ情報を得られると考えます。

〔対象・研究方法〕

2012年1月1日から2018年6月30日までの間に末梢動脈疾患の薬物治療、カテーテル治療、リハビリ療法を行った20歳以上の全患者様を対象といたします。患者の基本情報(年齢、性別、身長、体重や背景疾患、併存する他疾患、病気の重症度、内服薬、検査結果、治療内容)を集め、下肢切断、死亡との関連を統計ソフトを使用し解析・分析を行います。

〔研究機関名〕 帝京大学医学部内科学講座

〔個人情報の取り扱い〕

本調査は、個人情報の取り扱いを含めその実施にあたっては帝京大学の倫理委員会の審査を受けております。また、データはID化され、統計的に処理しますので、調査の集計や学会発表等にあたっては個人が特定されることは絶対にありません。データの管理、保管は厳重に行い、研究終了後は、データおよび資料は10年間保管の後すべて廃棄します。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願ひ申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者: 帝京大学医学部内科学講座 講師 興野 寛幸

研究分担者: 帝京大学医学部内科学講座 大学院生 名倉 福子

住所: 東京都板橋区加賀 2-11-1 TEL: 03-3964-1211 (代表) [内線 30415]